

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 19日から20日にかけて、高気圧が日本の東から日本のはるか東へ移動し、高気圧を回る湿った空気が東・西日本太平洋側に流れ込む。
- 21日は、高気圧が北日本付近を移動し、前線が東・西日本付近にのびる。
- 22日は、北日本付近の高気圧が強まり、前線は弱まる。
- 23日は、高気圧が日本の東へ移動し、前線が大陸から東シナ海にのびる。

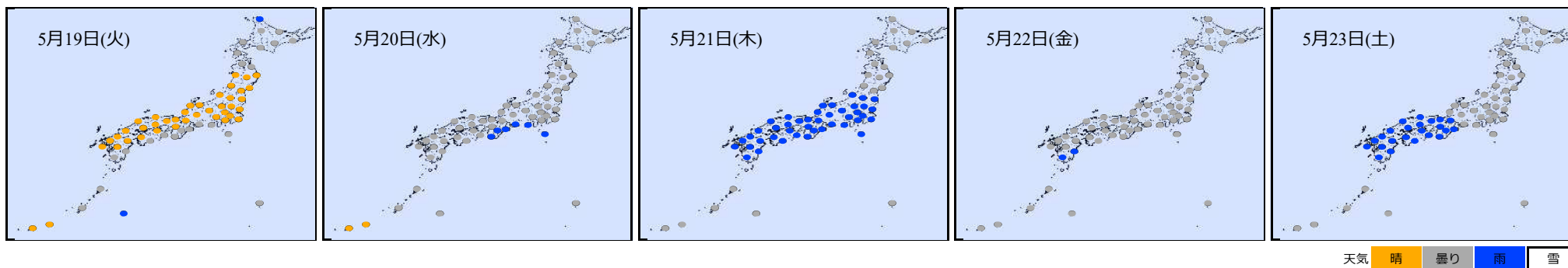
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

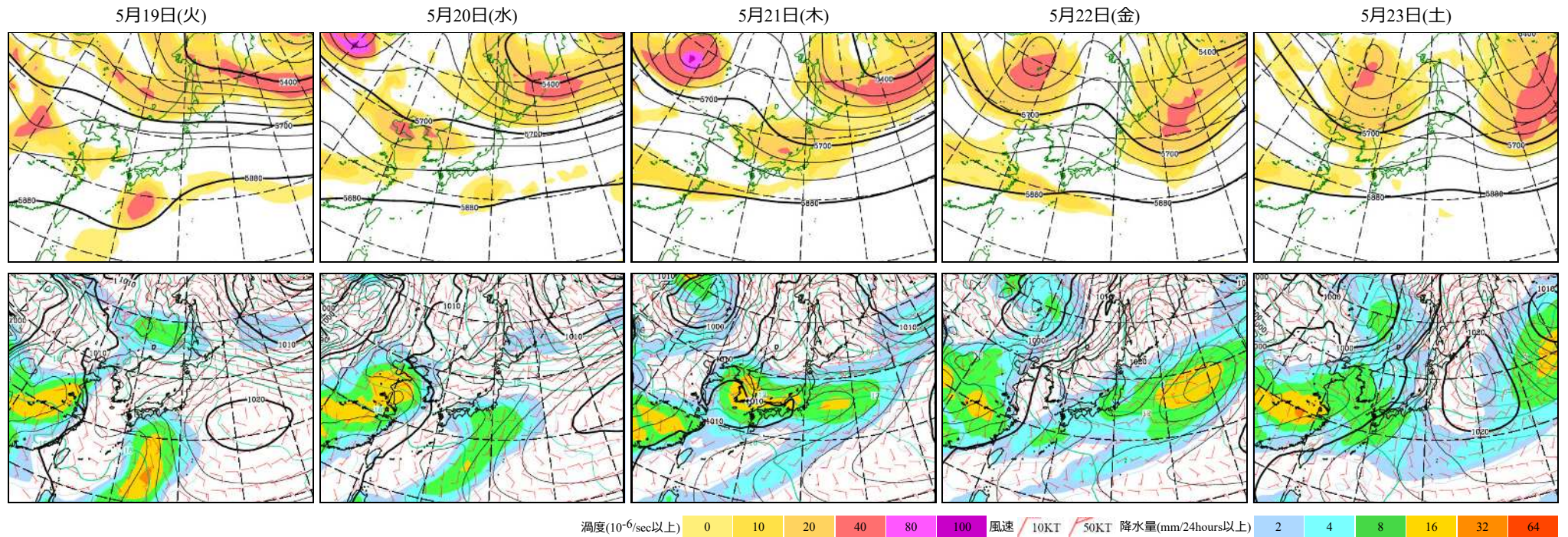
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

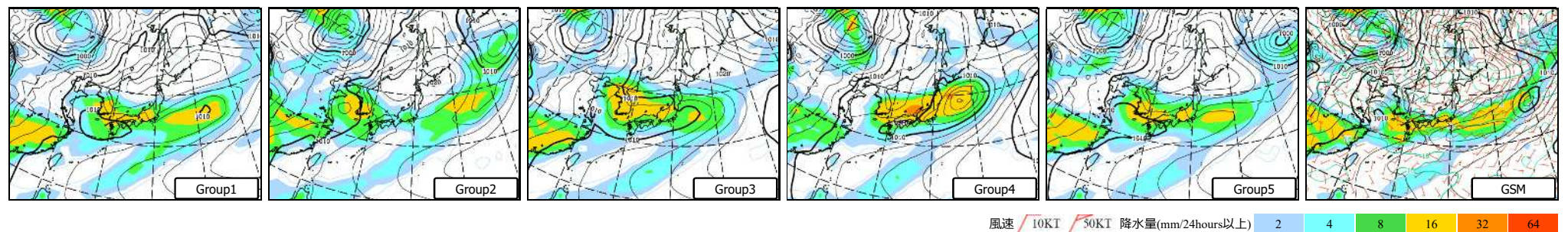


- 北日本は、曇りまたは晴れの日が多く、19日と21日は雨の降る所がある。
- 東日本と西日本は、19日は晴れる所が多い。20日から23日にかけては曇りや雨の降る日が多い。
- 沖縄・奄美は、晴れる所もあるが雲が広がりやすい。19日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆5月21日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、21日に日本付近に進むトラフが深くなり、東進がやや遅れる予想になった。また、後続のリッジが強くなった。地上の気圧配置は、21日は本州南岸の気圧の谷が明瞭となり、21日から22日の北日本付近の高気圧が強まった。
- 各モデルともに、21日に日本付近を進むトラフの予想に初期値変わりがあり、トラフの進みにはモデル間の差がある。
- 21日の本州南岸の低気圧については、GSMは伊豆諸島の東、NCEPは東海沖、ECMは関東の南東と四国付近に予想する。ENSは、それぞれのモデルに近いメンバーの他に、朝鮮半島付近に低気圧を予想するメンバーもある。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。